

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	コミュニティにおける防災、災害対応能力の向上
(2) 事業内容 (2014年7月末まで)	<p>(ア) コミュニティレベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ワークショップカリキュラム (別紙) の開発</u> ワークショップの指針や内容を記したカリキュラムをシンハラ語と英語 (110 ページ) で 8 月に各 500 部発行し、関係者に配布。 ・ <u>コミュニティレベルのワークショップ</u> ニーズ調査をもとに以下のコミュニティレベル (村、地区、又は県レベル) のワークショップを 11 回実施。 <ul style="list-style-type: none"> ① 4月10日：災害援助について、ハンバントタ島の9つの地区行政官66名が参加 ② 5月30日：災害に強い住居について、ハンバントタ島の行政官、県の防災委員、村のリーダー、青年56名が参加 ③ 6月7日：干ばつや洪水対策のための水資源管理について、リディヤガマ村の農家や住民60名が参加 ④ 6月24日：災害に強いコミュニティ作りについて、パハラベラガマ村の住民、主に災害弱者世帯50名が参加 ⑤ 6月27日：干ばつや洪水対策のための水資源管理について、パルガハゴデラ村の住民、主に女性55名が参加 ⑥ 7月6日：防災教育と防災計画の策定について、パハラベラガマ村の青年ボランティア56人が参加 ⑦ 7月7日：災害に強いコミュニティ作りについてアンバラントタ村のテラプトウサ高校の生徒55人が参加 (別紙2) ⑧ 7月17日：干ばつや洪水対策のための水資源管理について、タワルウィラ村の農家の女性58人が参加 ⑨ 7月27日：災害と心のケアについてベラガスウェラ村の主に女性リーダー36人が参加 ⑩ 7月28日：災害援助についてハンバントタ島の全12地区の青年会66人が参加 ⑪ 7月28日：災害と心のケアについてハンバントタ島の4地区の青年会34人が参加 <p>・ 防災啓発ポスター (1,000 部) やパンフレット (1,000 部) を作成し配布。</p> <p>(イ) 中央レベルおよび県レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>災害対応ネットワーク会合の開催 (別紙3)</u> 7月31日にコロンボのプロジェクトオフィスで、第1回災害対応マルチアクターネットワーク会合を実施。参加者はセイロン商工会議所、Cargill Ceylon Ltd (小売業)、Dialog Axiata (通信業) 等、コロンボにある16企業又は団体 (12業種) 合計25名が参加。会合では災害対応能力強化のためのナショナルプラットフォームの構築について説明し意見交換をただけでなく、今後も引き続き会合を持ちナショナルプラットフォームを具体化していくことで合意し

	<p>た。</p> <p>また上記のネットワーク会合以外にも防災省事務次官、防災センター局長、ハンバントタ県知事や行政官、防災担当官、セイロン商工会議所筆頭や事務次官、コロomboやハンバントタ県の NGO や CBO、学術関係者や防災専門家と会合を持ち事業内容を共有した。特にセイロン商工会議所とはネットワーク会合を共同で実施することで合意した。</p> <p>当初の予定では初年度にネットワーク会合を5回実施、ワークショップを3回実施する予定であったが、現在1回のネットワーク会合の実施にとどまっている。これについてはセイロン商工会議所の人事異動があり担当者が変わったこと、また関係者が多岐に渡り連絡調整に時間がかかったこと等が理由として挙げられる。しかし第1回のネットワーク会合を無事終えたので、今後引き続き会合を実施し連携を強化していきたい。</p> <p>(ウ) 国際セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程は12月3日～5日を予定しているが、参加者や内容については現在関係者と協議中。 <p>(エ) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月26日にCivic Forceのウェブサイトでスリランカの防災ワークショップについて活動報告。 ・ODAのバナーを作成し、ワークショップやネットワーク会合で設置している。
(3) 達成された効果	<p>(ア) コミュニティレベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップカリキュラムを英語とシンハラ語で各500部発行。カリキュラムを参考資料として添付。このカリキュラムには防災活動を実行する上で不可欠な6つの項目からなるが、特に6つ目の項目である災害と心のケアについては、これまでほとんど注目されなかった項目であるが、初めてカリキュラムとしてまとめられ対象地域の防災担当者や住民から高い評価を得ている。 ・防災・災害対応能力強化のためのワークショップを4月10日から7月31日の間に合計11回実施、参加者は合計592人（回答者532人のうち男性201人、女性331人）。 ・ワークショップ参加者に対するアンケートにより、満足度が79%（ワークショップ7回分の平均値）、基礎知識の習得度が81%（5回分の平均値）、仕事や生活への活用度が72%（7回分の平均値）。 ・実施された11回のワークショップのうち9回は地理的なアクセスのよくない災害に脆弱な村で実施。 ・受益者の声の一部を以下に記載。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 同じような緊急援助についてのワークショップを政府関係者やコミュニティリーダー向けに実施してほしい。(4/10, 5/30) ✓ 同じようなワークショップを学校のカリキュラムとして実施してほしい。(4/10, 5/30, 6/27)

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 雨季の時期の水管理が乾季に影響すること、耕作に必要な水を確保すること、排水を畑の耕作に使うこと等、理解できてよかった。これらの知識は村にとってもとても大切なので他の人と共有したい。(6/7) ✓ 水管理に関してフィールドでより実践的なセミナーも実施してほしい。(6/27) ✓ 学校で防災に関するプログラムを実施したのは初めてだったのでとてもよかった。他の生徒とも共有したい。(7/7) ✓ この防災ワークショップを通してコミュニティの一員であることの実感を感じた。(7/7) ✓ 全学年の生徒が見られるように防災に関するリーフレットやポスター、情報等を掲示板に掲載したい。(7/7) <p>・シンハラ語の防災啓発ポスター(1,000部)とパンフレット(1,000部)を発行(別紙5)。</p> <p>(イ) 中央レベルおよび県レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回災害対応マルチアクターネットワーク会合を7月31日に実施。参加者合計は25人(16企業又は団体、12業種)で、今後も引き続き協力関係を築いていくことで合意。 ・セイロン商工会議所とネットワーク会合を共同で実施することで合意。
(4) 今後の見通し	<p>(ア) コミュニティレベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップカリキュラムを関係者に配布。 ・ワークショップはすでに11回実施したので、今後も現地のニーズに応じて残りの19回を実施する。 <p>(イ) 中央レベル、および県レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セイロン商工会議所と共同し、災害対応ネットワーク会合を2回実施。 ・ワークショップを2回実施。 <p>(ウ) 国際セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月3日～5日にコロンボ市で開催。日本を含むアジア4カ国の防災や災害支援の事例を共有し、スリランカの国レベル、コミュニティレベルの連携体制の方策を練る。